

強さと弱さと永遠

karinomaki

## 強くなる努力

---

この文章では、強さと弱さの関係と、永遠について書きたいと思います。

私達は、日々強くなる努力をしていると思います。しかし、強いということは、とても難しいことです。心はいつも心配ごとや危険にさらされています。傷つくのが怖くない人はほとんどいないし、自分は全てに勝つことができると思うこともほとんどできません。もしそれができるとしたら、この世界で全てを克服したということだし、それならば学びの世界であるこの世に生きている意味がありません。それならば、傷つきたくないという弱さは、強くなるという学びのために必要なのです。

私も、傷つくことは怖いです。弱い人間です。しかし、弱いと思えば思うほど、自分の中に強くなりたいという願いを感じます。その時、生きていることの意味を知ります。

## 優しさの意味

---

私は今まで、強さと弱さを照らし合わせて、人生に、ドロドロした弱さから強さを求めて上へと上昇していくイメージを持っていました。しかし、そのイメージしかなかったのは、私が長い間あまり人と接することなく生きてきたからだと思います。今、周りの人を見て思うことは、人にとって強いか弱いかどちらかだけが問題なのではないということです。強さを持っていても、それだけが正しければ、強さは人を傷つける凶器になってしまうことがあります。強さと優しさが大切なのです。しかし、優しいということは、痛みを知っていることです。痛みを知っているからこそ、人を傷つけないのです。即ち、傷つくという、弱さがなければできない経験が必要なのです。

強いだけで優しさがいない人は素敵ではありません。しかし、そのためには弱さも持っていなくてはならないのです。だから生きていくのは難しいのだと思います。

## 永遠を導く

---

強さと弱さから永遠を導いてみたいと思います。この世界で永遠を感じることはとても難しいことです。しかし、永遠なんてないと考えると、強いことが全てと言っていることと同じです。

永遠とは、強さと弱さが絶妙にブレンドしてできるものと私は考えています。永遠は存在すると考えることは、この世界ではとても難しいことです。人の命はこの世界では永遠ではないからです。しかし、この世界を突き抜ければどうでしょうか。永遠は人がどうしても信じたいものです。もし、永遠はないと考えるならば、この世界が人の存在する全てです。そうすると、どうしてもこの世界だけの幸せを、人は求めます。そして、強さだけを育ててお金や権力を求めます。形あるものを求め、手に入れてそこで満足してしまうのです。ではどんなふうに強さと弱さがブレンドされれば永遠が導かれるか考えてみたいと思います。

## 永遠が浮かび上がる

---

先ほどと反対に、この世界に絶対確実なものはないと考えると、強さが否定されます。強さによってこの世界でいろんなものを手に入れることにあまり執着しなくなります。しかし、そんな中、人は永遠を漠然と意識します。この世界には確実なものはない。それでは、この世界をこえれば永遠があるのだろうか。その気持ちは不安定なものです。永遠を心底から信じることは難しいものです。しかし、弱さや不安定な心が基軸で、永遠が浮かび上がってくるのだと思うのです。そして弱さだけでは永遠は築かれません。永遠を何の疑いもなく信じることは、弱さと戦うことをしていないことです。永遠は完全に信じきるものではなく、疑いつつ、心の中で築いていくものだと思うのです。この世界で、永遠を信じたい気持ちは、弱く、何か確かなものが欲しいと願う、しかし、永遠を信じきれず弱さと戦い続ける強さとともに培われると思われま

## 地を固める

---

この世界は、足元がたえずグラグラしています。自分は何からも守られていると思うと、そこで成長が止まってしまい、人は何かを築こうとしなくなります。強さによって求める形あるものは、人の成長をはばむのです。生きていることは不安定なものであると思うからこそ、弱さを持っているからこそ・・・いつも地面はグラグラであるからこそ、人は永遠を求めていきます。

永遠を求めることは、強さであり、弱さです。永遠に生きることをどこかで求めている人は、人は強く、そしてどうにもならない弱さを持っていることを知り、自分の弱い地面を必死で固めて浄め、いつも戦っています。だからこそ、この世界で共に戦う同志を求め、本当のパートナーや親友を見つけることができるのです。強さしか大切でないと思っている人は強いかもしれませんが、固められた確かな地面に乗っているわけで、そうなるよりそれ以上成長することができません。弱い立場の人を傷つけても、それに気がつきません。弱さを持っているから、地面がグラグラだから、優しさを知り、人を大切にし、いつも一緒に戦い、心の成長を支えてくれる本当の友達とも出会えるのです。その友情は永遠なのです。

## 目に見えない支え

---

この世界で永遠を感じることは難しく、うつろっていくもののむなしさをいつも感じてしまいますが、強さと弱さの絶妙な関係に気がつくと、この世界で強さによって確かなものをつくること以上に、もっと繊細で、しかしもっと確かな「永遠」というものを紡ぐ意味について気がつくと思います。この世には不滅のものはない。しかし、だからこそ、この世界の向こうに永遠を求め、弱さと向き合い、強くなろうとするのだと思います。人はもともと弱いものだから、何か確かなものが欲しい。しかし、それはこの世界での確かなものではないのです。この世界での強さ、確かなものは頭をかたくし、柔軟な考え方はばみまます。この世界を突き抜けた永遠に気がつくとき、人は自分の弱さと向き合っています。弱く柔らかい地面だから、確かかどうかはっきりわからない、しかし、強さを育てるための目標、「永遠の柱」を立てようとする事ができるのです。弱いからこそ、強くなろうとする・・・永遠はその中で浮かび上がってくる目に見えない支えなのです。

## 確かなお守り

---

この世界で生きる、確かなお守りは、心でつくり続ける、構成し続けるものだと思います。つくらずにすむ、普遍の何か確かなものがあればどんなにいいかと思うのですが、お守りを持っていても、それが心の成長を示すもの、いつも心でアップデートするものでないと色あせてしまいます。

弱くグラグラの地面に立っていてもいいと思います。柔らかい地面にこそ、強い永遠の柱が立つからです。自分は弱さを持っている、でも、強くなりたい・・・そんな願いの先に永遠があると思います。永遠を目指すこと、永遠を信じたくてつくり続ける、努力し続けることそのものが何よりの確かなお守りなのだと思います。

弱くてもいい、しかし、永遠を信じたくて苦しみ、強くなろうと努力し続けることの中に、人間の本当の魅力と強さがあるような気がします。